

## 「地（知）の拠点整備事業自己点検・評価委員会」及び「地（知）の拠点整備事業外部評価委員会」

『伊勢志摩定住自立圏共生学』教育プログラムによる地域人材育成」事業の自己点検・評価及び外部評価体制について

「伊勢志摩定住自立圏共生学運営会議」は、本「地（知）の拠点整備事業」の自己点検・評価及び外部評価体制について、平成 26 年第 2 回「伊勢志摩定住自立圏共生学」運営会議（平成 26 年 9 月 5 日開催）において以下の通り定めた。

＊第 4 回「伊勢志摩定住自立圏共生学」運営会議（平成 26 年 10 月 23 日開催）にて外部評価委員について最終報告

### 記

#### (1) 自己点検・評価体制について

##### (ア) 自己点検・評価項目

評価項目 1：計画の進捗状況について

事業計画は予定通り進んでいるか。

評価項目 2：プログラムの学修目標について

開発しているプログラムは個々の科目ごとに、学生に対して「学修を行った学修者が一定期間の学修を終了した時に何ができるようになって欲しいのか」が明示されているかどうか。

評価項目 3：プログラムの学修成果について

学修成果が、圏域の課題に関して

- ①認知的領域（知識・理解）
- ②情意的領域（関心・意欲・学修姿勢）
- ③技能的領域（スキル）

の三領域に亘って明示されているかどうか

また、学修成果が

- ①具体的に示されているか
- ②成果測定可能か
- ③学生にとって達成可能なレベルに設定されているか
- ④学生にとって意味あるものに設定されているか
- ⑤圏域の課題解決にとって、意味あるものに設定されているか
- ⑥一定期間内に習得可能なレベルと量であるか

評価項目 4：学修成果の測定方法について

学修成果の測定方法は適切かどうか。

評価項目 5：プログラムの地域志向性・体系性・順次性は適切かどうか

評価項目 6：授業外の課題等が適切に指示されているかどうか

評価項目 7：大学及び自治体の役割は明確に定められているかまた連携は効果的に行われているか

評価項目 8：計画した定量的な目標が達成されているか

評価項目 9：経費の執行は適切に行われているか

(イ) 自己点検・評価委員

以下の通り自己点検・評価委員を定める。

【委員長】 清水 潔 (COC 実施本部長／皇學館大学 学長)

【副委員長】 齋藤 平 (COC 実施副本部長／皇學館大学 教育開発センター長)

【委員】 辻 浩利 (伊勢市情報戦略局企画調整課長)

濱口 博也 (鳥羽市企画財政課副参事)

下村 卓也 (志摩市企画部企画政策課長)

林 裕紀 (玉城町総務課長)

中井 宏明 (度会町政策調整室長)

生駒 典郎 (大紀町企画調整課長)

小山 浩之 (南伊勢町行政経営課長)

中谷 英樹 (明和町防災企画課長)

伊藤 公昭 (三重銀総研取締役コンサルティング部長)

又は別府孝文 (三重銀総研調査部上席部長代理)

筒井琢磨 (皇學館大学 教育開発センター教員／現代日本社会学部教授)

笠原正嗣 (皇學館大学 教育開発センター教員／現代日本社会学部教授)

板井正斉 (皇學館大学 教育開発センター教員／現代日本社会学部准教授)

特命教員 1

特命教員 2

特命教員 3

木村 成吾 (皇學館大学 企画部長)

橋本 久 (皇學館大学 企画部地域連携推進室課長)

専任職員 1 (皇學館大学 企画部地域連携推進室)

その他委員長が指名する者若干名

(ウ) 自己点検・評価委員会

委員長は平成 26 年度は 10 月と 3 月に、平成 27 年度から 30 年度は 5 月と 3 月に自己点検・評価委員会を招集する。委員会は年度末の自己点検・評価を行い自己点検・評価書を作成する。

(2) 外部評価委員について

外部評価委員を以下の方に委嘱する。

丸山 仁 氏 (岩手大学副学長／同大学 COC 事業実施責任者)

岩崎 恭典 氏 (四日市大学副学長／同大学 COC 事業実施責任者)

益川 浩一 氏（岐阜大学大学院教育学研究科准教授／同大学地域協学センター副  
センター長）

計 3 名

自己点検・評価委員長は外部評価委員を年に 2 回招聘し、年度計画及び年度末の自己点検・評価に関し、外部評価を委嘱する。

自己点検・評価委員長は、自己点検・評価及び外部評価委員からの意見を踏まえて、年度末に業績報告書を作成し、指定の期日までに実績報告書を提出する。

以上